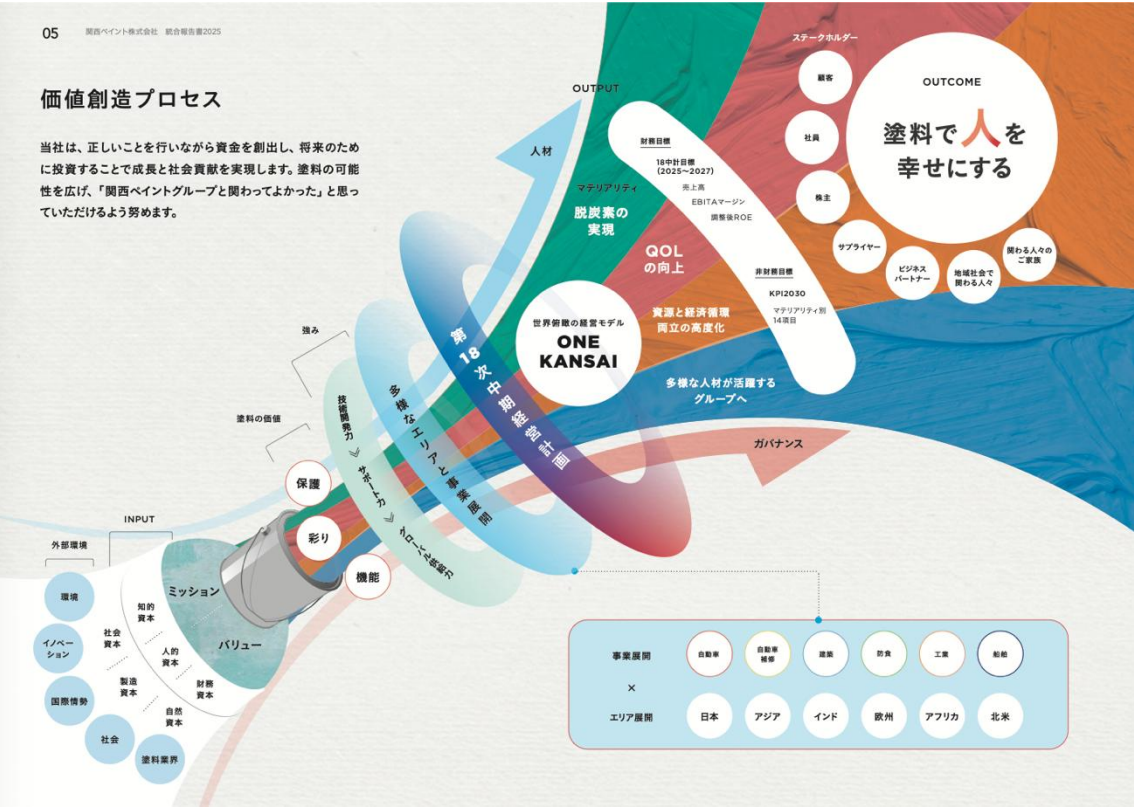


企業名： 関西ペイント

レポート名： 統合報告書 2025

1. この会社が目指す姿が理解できるか（将来）

よく理解できる。関西ペイントの統合報告書を見ると、一貫して「塗料で人を幸せにする」という企業としてのビジョンを掲げている。また、2 ページには役員の方々それぞれのこの会社が目指していくべきビジョンが共有されており、全体として「世の中を良くしていくための塗料を開発し、環境、社員、顧客を含めたステークホルダーたちに幸せを提供する、という明確な目標が記されていた。さらにはそれを達成するための価値創造プロセスをユニークかつわかりやすい図形を用いて表しておりそのビジョンをどのように達成していくのかについてもよく理解できた。また、第 18 次中期経営計画（2025～2028）では、グローバル市場での存在感を強化すること、環境に適合した製品を開発すること、人的資本への投資を明確に方向性として示しており、企業としての目指す姿も提示されている。特に、「環境と人に優しい製品の提供」や「脱炭素社会への貢献」、「地域密着型のグローバル戦略」という言葉が頻出されており、経済成長だけではなく持続可能な社会を実現するための価値創造に重きを置いていることがわかる。このように経営戦略と企業の理念が一致しており、報告書を読むことで会社の将来像を理解できる。



2. この会社の競争優位性が理解できるか（現在）

理解できる。関西ペイントは、工業用、自動車用、建築用などさまざまな塗料分野において実績を上げており、アジアやアフリカ、インド、中東などの新興国市場での基盤を確かなものとしつつある。また、37 ページによると第 17 次中期経営計画での欧州の WEFA や WEILBURGER 社などの買収によって欧州最大の鉄道塗料サプライヤーとしての地位を確固たるものとし、M&A を用いた事業ポートフォリオの強化を進めることで地域での戦略と技術的な展開を一体的に進めていることが伺える。

環境、イノベーション、世界情勢、社会、塗料業界など社会環境の変化の観点から、そのそれぞれの分野においての自社の強みを分析している点からもその優位性を理解することが可能である。競争において自らの強みを理解しているのと理解していないのとではその後の展開が大きく異なる。強みを理解しているだけでも競争においてアドバンテージを獲得することができる、と考える。財務面でも ROE やフリーキャッシュフローなどの指標の改善が示されており、経営の効率の良さと財政の安定性が伺える。

さらに、強みだけでなく課題も認識されていると尚良い。関西ペイントでは CFO によってその課題が明確に示されており、自社の PER が低いという現状を踏まえた上で、資本コストを下げるために「経営者への信頼」を重視すること、具体的にはサプライズや期待を裏切るようなことはしないこと、が重要だと述べている。

これらの点から、関西ペイントの現在における競争優位性を確認することができる

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか（変化）

やや理解できる。関西ペイントは競争優位性を持続的なものにするために環境、社会、ガバナンスの分野での取り組みを強化している。特に温室効果ガスの削減やリサイクルに対応した製品を開発することなどサステナブル製品に力を入れているほか、各国の法規制に対応する体制の強化や、地域ごとの法的、文化的なコンテキストに配慮した運営が強調されている。さらに、人的資本経営の実現を目指してグローバルな人事制度を導入したり、ダイバーシティを推進したりすることに力を入れており、技術だけではなく組織力の持続的な向上を目指している点では高く評価できる。一方で外部的な要因、例えば原材料の価格高騰や各国での地理的、政治的影響への対応や、競合他社との比較についてやや不足しているように感じられ、その部分での持続性に懸念が残る。

これらの点より、総じて関西ペイントの競争優位性の持続性は認識することができるが、外部からの影響についての考慮を明確にした方がより持続性が増すと考える。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

少し不安が残ると考える。関西ペイントでは「人材の成長が企業の成長につながる」という考えのもとで人材育成が行われており、31、32 ページでそのシナリオが記されている。しかし具体的な人材育成のプログラムなどの記載がなく、どのような方法で人的資本の価

値向上を行なっていくのかについての理解があまり深まらなかった。しかし人材の戦略については詳しく説明されているほか、昨今重要視されているグローバル、ダイバーシティの観点を重要視している点については好感が持てた。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

本報告書はビジュアル面、内容面ともにわかりやすく構成されており、経営戦略、財務情報、非財務情報をバランスよく盛り込んでいる点が高く評価できる。経営計画と企業理念も一致しており、読者からの信頼も得やすいと考える。一方で気になる点として、前述したことではあるが競合比較、業界内での立ち位置がわかりづらく、相対的な裏付けが不足している点が挙げられる。この部分を明確にさせていただくことで、投資家、就職希望者のどちらにとってもより説得力が増すと考える。